

まんなかビジョン討論会（静岡会場）開催結果の概要

1. 開催日時・会場

- ・ 日時 平成 14 年 11 月 10 日（日）13：30～15：30、晴れ
- ・ 会場 静岡県女性総合センターあざれあ 4 階第 1 研修室

2. 出演者構成

- ・ **コーディネーター**

上野 征洋 （静岡文化芸術大学教授）

- ・ **発言者**

小野寺郷子 （静岡市在住）

小林 靖彦 （静岡市在住）

佐々木智子 （静岡市在住）

築地 勝美 （静岡市在住）

豊田 幹夫 （清水市在住）

鳥居 久保 （静岡市在住）

守本 尚子 （静岡市在住）

山本 佳昭 （静岡市在住）

- ・ **行政側出演者**

元野 一生 （中部地方整備局企画部技術企画官）

井出 正之 （中部運輸局企画振興部交通観光計画調整官）

岩田 良明 （静岡県土木部建設政策室長）

木村 忠幸 （静岡県都市住宅部都市政策室長）

- ・ **聴講者数**

68 名（男性 54 名、女性 14 名）

- ・ **会場風景**



3. 主な発言要旨

[私の考える地域づくりに関して]

- ・ 静岡は気候的にも地理的にも良い地域にもかかわらず、東西に人々が通過してしまっている地域でもある。イベント好きな静岡の地域性という観点から、継続性のあるイベントを市民や行政が協働して行い、静岡の立地条件を活かしていく必要がある。
- ・ 地域の問題点の解決策を持っている市民が多くいる。その解決策を提言できる一元化した行政の窓口が必要ではないか。
- ・ 社会資本等の整備や促進計画において、難しい事は行政に任せておけばよいと思っていたが、まずは自分たちで考えていかなければならない。そして、ビジョンは整備や促進計画だけではダメで「文化」が生まれていかないと地域づくりに対する意識は定着しないだろう。
- ・ 安部川を中心に地域づくりを考えている。毎年、クリーン作戦として清掃活動をおこなっているが、年々ゴミは増加している。このゴミ問題を一つとっても、地域づくりにはマナーが大事である。行政と地域が一体となって、安部川をいつまでもきれいにし、地域づくりを進めていきたい。
- ・ 週休2日制を活かして、子どもたちに総合学習の場の一つとして「港」の利用から地域づくりをどうしたらよいか考えていくのも良いことではないだろうか。
- ・ 生活の豊かさはモノの豊かさから心の豊かさにパラダイムシフトをしている。まず、ソフト政策として、中部4県にわたる文化振興財団をつくっていきたい。
- ・ 一人一人が生活している実感を感じられる地域づくりが必要である。生活は小さな分野から成り立っている。今回出した意見はどこにいくのか。行政には意見がどのように政策に反映されているのかがわかるような透明性が必要である。
- ・ 「障害者や高齢者が生き生きと暮らせるまち」が、私が考える地域である。しかし、今日少子高齢化とまちづくりへの政策が個別に動いている感じがする。これらをミックスした活動が必要ではないか。静岡は、NO1を目指すのではなく、オンリーワンを目指し地域特性を表に出していくことが重要であると思う。

[まんなかビジョンへの期待]

- ・ 一般住民はこの討論会のこと自体知らないと思う。そういう人たちにも周知させる方法が必要となってくる。まんなかビジョンへの期待として、地域づくりには長いスパンで行うものと急いでやらなければいけないものがある。そういうテーマを分けてやっていくことが重要だ
- ・ まんなかビジョンの策定において、決定までの過程は把握できたが、どのような議論があって政策が変わっていったのか、変化の流れについても教えていただきたいと思う。納得できる内容が欲しい。中部地方整備局管内の計画全体の流れがわかりにくい。
- ・ アウトカム指標を考えることはいいことだ。古いものを新しく使うことも必要ではないか。今ある環境を活かすソフトづくりに力入れるべきだ。

【中部の目指すべき方向（7つの目標）のうち、静岡地域や中部地域全体にとって特に重要な目標（意向アンケート結果*を受けて）】 *意向アンケートの結果は末尾掲載

- ・ 静岡東部・中部では、Ⅶ、Ⅳ、Ⅵ、Ⅴといった所に票が入り、中部地方全体とは、Ⅰ～Ⅲのところについて異なっている点特徴的だ。
- ・ Ⅴ、Ⅵ、Ⅶは自分自身が個人として参加できる項目なので、多くの票を得たのではないか。総合学習をやるうにも自然を学ぶ場所が少なくなっている。個人個人が参加できる地域づくりを目指していく必要がある。
- ・ 中部の首長が考える地域づくりについてのデータを見ると、都市部では「住民参加」、農山村部では「自然と共生」を重視しているように、地域によって求めているものが違う。
- ・ ヨーロッパ型の社会は、見習うべきところが多いと思う。必要なものは新しく積極的につくっていく必要がある。生活する上で基本的なものを中部ブロック内でつくっていく必要がある。陸海空ともに、災害に強いインフラ整備が必要。
- ・ 一般住民は、このパンフレットに書いてあるような中部がどのような地域であるかといったデータを知らない。もっと情報発信に力を割いてはどうか。
- ・ 神奈川県や山梨県は隣の県でありながら違う行政区域であり、連携がとれていない。隣県との連携も必要なのではないか。また、静岡にはいろいろなものがあるが、ネガティブなことが発展へのパワーになることもある。
- ・ 静岡県をもっと発展させるには、湯布院のように地域全体としてまちづくりを考えることが必要である。

4. 意向アンケート結果

会場にお越しいただいた方に対し「意向アンケート」を実施し、その場で、「中部の目指すべき方向（7つの目標）」について、静岡県東部・中部と中部地域全体のそれぞれの観点から最も重要と思われる項目について尋ね結果を発表した。結果は以下の通りである。

- ・ 静岡県東部・中部地域では、「Ⅶ.東海地震をはじめとした災害に強い安全・安心な地域づくり」が最も多かったが、「Ⅳ.日本のまんなかである優位性を活かし、国土の東西・南北軸の再生や交流拠点整備による国内外交流の推進」「Ⅴ.中部の豊かな自然環境、歴史、文化などを活かした地域づくり、観光振興」「Ⅵ.誰もが生き生きとして暮らせる豊かでゆったりとした生活環境の実現」も含めた4つの目標に回答が偏っているのが特徴である。
- ・ 一方、中部地域全体は、「Ⅳ.日本のまんなかである優位性を活かし、国土の東西・南北軸の再生や交流拠点整備による国内外交流の推進」と「Ⅶ.東海地震をはじめとした災害に強い安全・安心な地域づくり」が最も多いが、静岡県東部・中部地域の傾向に対し、7つの項目全てに回答が得られている点特徴であり、特に「Ⅰ.モノづくりなど産業の国際競争力の強化」や「Ⅲ.東海環状都市圏・環伊勢湾広域交流圏などの形成による新たな交流の拡大」といったところは静岡に比べ回答が集まっている。

〔意向アンケート得票数〕

